

第29回小児保健セミナー 医療的ケアの必要な子どもへの支援

医療を必要とする子どもの災害への備え

—子どものセルフケア能力を高めるために—

加藤 令子

I. 取り組みの背景

2011年3月11日に発生した、東北地方太平洋沖地震は、のちに東京電力福島第一原子力発電所の原子力事故を引き起こし東日本大震災に発展、世界でも類をみない大規模災害となりました。現在も、東日本大震災の余震が続く中、首都直下地震や東海・東南海・南海地震の危険も高まっています。また、近年わが国でも、大型化した台風、竜巻、落雷、大雪、および、火山噴火などによる被害も増加しています。そのため、国民一人ひとりが各自の安全やいのちを守るため、災害への備えを行うことが求められています。

医療を必要とする子どもは、慢性的な疾患を抱える者、医療的ケアを必要とする者、小児（り）ハビリテーションの対象者など、さまざまな背景を抱えています。そのため、子ども一人ひとりの状況に合わせた備えが必要であり、また、発生の可能性のある災害の種類により、備えは異なってきます。災害へ備えるためには、物品や設備の備えだけではなく、災害発生時の各自の

適切な判断力を養うことが重要です。医療を必要とする子どもたちも、各自の認知能力に合わせた災害の備えを行うために、子ども自身のセルフケア能力に応じた、＜子どもの力を活かした災害の備え＞を行うことが必要ではないでしょうか。

II. 医療を必要とする＜子どもを災害から守る＞取り組み

医療を必要とする＜子どもを災害から守る＞ための取り組みとして、1995年に発生した阪神・淡路大震災の経験を基に、兵庫県立大学看護学研究科21世紀COEプログラム小児看護班が開発した小児病棟で災害に備えるための『小児病棟用ケアパッケージ』（図1）<sup>1)</sup>、在宅療養をしている子どもたちが自宅で災害に備えるための『在宅支援者用ケアパッケージ』（図2）<sup>2)</sup>があります。

筆者は2008・2009年度に、当時着任していました茨城県立医療大学で、「医療を必要とする子どもへの災害の備え」というテーマで、県内の医療を必要とする子どもの災害への備えの研究に取り組みました。災

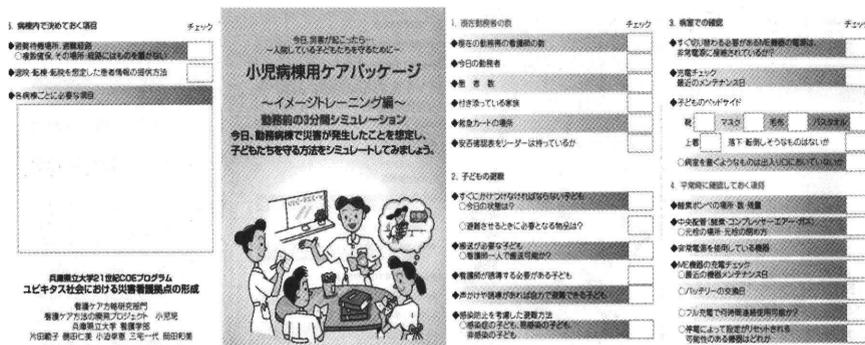


図1 『小児病棟用ケアパッケージ～イメージトレーニング編～』

お子様を使用している機器の点検	
<input type="checkbox"/>	機器のバッテリーは、作動しますか。
<input type="checkbox"/>	メンテナンスの緊急連絡先は、どこどこに提示してありますか。
<input type="checkbox"/>	メンテナンスの連絡先を携帯していますか。
<input type="checkbox"/>	懐中電灯は、お子様のそばにありますか。
<input type="checkbox"/>	(人工呼吸器をご使用の場合) アンビューパックは、お子様のそばにありますか。
<input type="checkbox"/>	機器は、お子様に倒れたり、外れないようになっていますか。
いざという時のストックや代用品の点検	
<input type="checkbox"/>	ご家族が3日間は生活できるストックがありますか。
<input type="checkbox"/>	飲料水やお子様のケアに必要な水を確保していますか。
<input type="checkbox"/>	手が洗えないときの代用品はありますか。
<input type="checkbox"/>	電気が止まったときに代用品はありますか。
<input type="checkbox"/>	ストックの使用期限は、過ぎていませんか。
<input type="checkbox"/>	ストックは、複数に分けて置いていますか。
<input type="checkbox"/>	ストックは遠くを持ち出せますか。
ご家族の中で連絡方法の確認	
<input type="checkbox"/>	緊急時の避難方法は決まっていますか。
<input type="checkbox"/>	お子様がご家族と連絡をとるための方法を携帯していますか。
<input type="checkbox"/>	お子様を安心してあずけられる人や施設がありますか。
<input type="checkbox"/>	医療施設との連絡方法は決まっていますか。
<input type="checkbox"/>	お子様のことを周囲にはどのように伝えてありますか。
<input type="checkbox"/>	ご家族がお子様と離れる場合の連絡先を携帯していますか。

支援者との情報共有シート	
	担当者 <input type="text"/>
お名前	<input type="text"/>
職 称	<input type="text"/>
	(お子様はどのように呼ばれると安心されますか。)
保 護 者	<input type="text"/>
連絡先①	<input type="text"/>
連絡先②	<input type="text"/>
お子様が生活する上で気をつけてほしいこと	<input type="text"/>
みんな一緒に考え決めたこと (メモ)	<input type="text"/>

図2 『在宅支援者用ケアパッケージ』

害はいつ発生するかわかりません。そのため、兵庫県立大学看護学研究科小児看護班が開発した2つのパッケージの県内への導入と並行して、医療を必要とする子どもたちの多くが在籍している特別支援学校での災害の備えを促すために『特別支援学校用災害シミュレーションパッケージ「茨城モデル」』<sup>3)</sup>を開発しました(現在は、『特別支援学校用災害シミュレーションパッケージ』出典 [http://www.crdc.ipu.ac.jp/\\_userdata/files/package.pdf](http://www.crdc.ipu.ac.jp/_userdata/files/package.pdf) アクセス2012年7月16日)。パッケージは、各学校で毎日発生する可能性の高い災害を想定し、教職員各自が災害発生時にとるべき行動をイメージトレーニングする「イメージトレーニング編」(資料1)、水や食料、医療的ケアの必要な子どもに薬や器材等の必要物品の備蓄を促す「備蓄編」(資料2)、危険物の確認や避難経路の確保等の施設について確認する「設備編」(資料3)、それらを使用するための「解説書」で構成されています。イメージトレーニングは、阪神・淡路大震災の経験から重要性が提示されたものです。兵庫県立大学看護学研究科小児看護班のインタビュー調査より、阪神・淡路大震災発生前からひとりの看護師が、災害発生時に自分のとるべき行動をイメージするトレーニングを実施していた結果、大震災発生時に自分のイメージしていた行動をとることができたということがわかりました。『小児病棟用ケアパッケージ』での、イメージトレーニングの実施効果が言われており、『特別支援学校用災害シミュレーションパッケージ「茨城モデル」

にもイメージトレーニングを導入しました。

本パッケージは、茨城県教育庁特別支援教育課のご理解と茨城県内の6特別支援学校の教職員の方々のご協力の基に開発したものです。開発に当たり、教員・看護職員への数回のインタビュー調査の実施、および、特別支援学校で災害発生を想定した夏・冬の宿泊体験に筆者らも参加しました<sup>4)</sup>。

3つのパッケージは、医療を必要とする子どもとかわる人々が、<子どもを災害から守る>ための備えとして提示したものです。東日本大震災発生時、茨城県内でパッケージを導入していた特別支援学校では、毎日のイメージトレーニングの効果として、学校教職員が災害発生時に的確な判断の基に速やかな行動がとれたという研究結果が得られています。また、水や食料、防寒のための薪、テント、ラジオ等の備蓄が非常に役立つという評価を得ています<sup>5)</sup>。

### Ⅲ. <子どもを災害から守る>から<災害に備えて子どものセルフケア能力を高める>という発想の転換

2009年に『特別支援学校用災害シミュレーションパッケージ「茨城モデル」』を開発後、茨城県下の特別支援学校で導入を促しました。筆者は、東日本大震災前の2010年には、災害へ備えることの発想の転換の必要性について考えていました。特に、特別支援学校に在籍している児童生徒の中で、認知能力が発達段階に相応する肢体不自由児が自立していく過程において、「子ども自らが災害から自分の安全といのちを守

る」という、備えの主体を子どもとし、子どもが災害への備えについてのセルフケア能力を高め、かかわる者は子どもの不足している能力を支援するという発想が重要と考えました。このような発想の転換をしたのは、災害が多発する中、災害へ備える主体を子ども自身にしなければ、子どもの安全やいのちを守ることは難しくなるであろうという思いからでした。この発想の転換が、VI. で紹介する「肢体不自由児自身が災害の備えへのセルフケア能力を高めるためのパッケージ開発」への取り組みへとつながりました(表1)。今後は、<子どもを災害から守る>と<災害に備えて子どものセルフケア能力を高める>という両方の発想からの災害への備えが、医療を必要とする子どもの安全やいのちを守るためには必要と考えます。

IV. 小児看護におけるセルフケア理論の活用

小児看護においてセルフケア理論を活用したケアの提供では、一人ひとりの子どもがそれぞれの持つ最大の能力を状況に合わせて発揮できるようにかかわることを目標とします。小児は成長発達の上にあるため、健康な子どもであっても、子どもと親(保護者)との相補的ユニットと考えます。子どものセルフケア能力が高まると、親の依存的セルフケア能力(子どものセルフケア能力の不足している部分を補う能力)は縮小します(図3)。

V. 災害へ備えるために子ども自身のセルフケア能力を高めることの必要性

以下に3事例を提示します。事例が示していますように、保護者や子どもとかかわる人々が、<子どもを守る>という発想の基で行っていた行為が、災害発生時に子ども自身が自分の身を守ることを難しい状況に

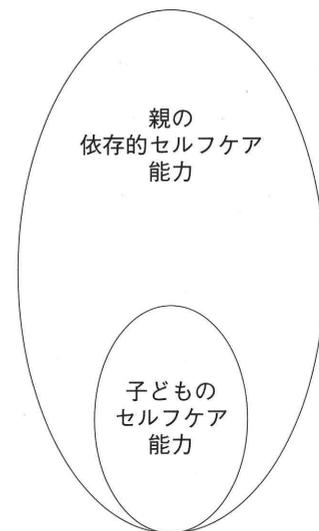


図3 親と子どものセルフケア能力ユニットの相補的關係 (小沢道子・片田範子編: 標準看護学講座 第29巻 小児看護学, p.149, 金原出版, 2005. より一部引用・改変)

しています。

事例1)

『特別支援学校用災害シミュレーションパッケージ「茨城モデル」』を活用し災害への備えを行っていた学校で、子ども各自に必要な物品を備えるため、保護者に子どもに必要な物をバッグに準備することを依頼しました。しかし、バッグの中身は保護者が準備したものであるため、子どもたちは自分のために何が準備されているのかを知らないままに、東日本大震災に遭遇しました。バッグの中には、子どもが食べることができない食料が入っていたものもありました。

事例2)

自己導尿を実施していた認知能力には問題がない高等部生徒が、保護者が導尿カテーテルを保管場所につきも必要数準備していたため、カテーテルがどのように準備されているのかを全く知らないという状況がありました。

事例3)

『特別支援学校用災害シミュレーションパッケージ「茨城モデル」』を活用している学校で、災害へ備えるために、学校内に薬1日分を保管するため保護者に薬の持参を依頼しました。子どもたちは自分がどのような薬を内服しているのかを知らないのではないかと、教員は心配しています。

さまざまな大規模災害が発生しています。災害発生時には、子どもたちは混乱の中に巻き込まれる可能性

表1 災害への備えについての発想の転換

	これまでの医療を必要とする子どもの災害への備え	これからの医療を必要とする子どもの災害への備え
主体	・医療を必要とする子どもにかかわる者	・医療を必要とする子ども本人
目的	・子どもにかかわる者が各々の場に応じた災害の備えの実施	・子ども自身の災害の備えへのセルフケア能力を高める ・子どもの発達と生活を軸とした災害の備えの実施

\*今後はこの両方で災害に備えることが必要

があります。そのような状況の中、確実に食べることができ、食事をも自分と一緒に準備し手元にあること、自分が必要とする薬や医療的ケアに必要な物品がどのようなものであるのか、また、それが備蓄されていることを自身が目で確認をして知っていることは、子ども自身が避難場所に居ても大丈夫という安心感につながるようになると思います。

## VI. 「肢体不自由児自身が災害の備えへのセルフケア能力を高めるためのパッケージ開発」への取り組み

筆者は、2011年度～2013年度の3年間、「肢体不自由児自身が災害の備えへのセルフケア能力を高めるためのパッケージ開発」学研究費助成事業（学術研究助成基金助成金（基盤研究（C）））、（課題番号23593328）の研究に取り組んでいます。本研究は、幼児期後期の子どもから中学生レベルまでの認知発達にある者を対象とし、認知発達に応じた4種類の災害に備えるためのパッケージを開発する予定です。

2011年11月に、東日本大震災で最大震度6強を経験した肢体不自由児を対象とする特別支援学校3校の中学部生徒8人、保護者8人、教員9人に、肢体不自由児自身が災害に備えることの必要性の有無と、備えるために必要な能力等についてのインタビュー調査を実施しました。また、その後、インタビュー対象者以外の6人の教員と2回の会議を開催しました。

その結果、現時点で子ども自身が災害に備えるために必要なセルフケア能力として、9つの能力が抽出されています（表2）。また、セルフケア能力を高めるための教育方法として4つの方法が抽出されました（表3）。今後は、さらにインタビュー調査を続け、肢体不自由児が災害に備えるために必要なセルフケア能力を獲得するための方法論について検討していく予定です。

表2 肢体不自由児が災害に備えるために必要なセルフケア能力（インタビュー調査より）

- ・自己受容ができる
- ・身を守ることができる
- ・緊急事態を察知することができる
- ・必要物品の準備ができる
- ・他人の力を借りることができる
- ・落ち着いた対応がとれる
- ・自立した行動がとれる
- ・周囲の状況の理解ができる
- ・連絡手段の獲得ができる

表3 肢体不自由児が災害に備えるセルフケア能力を高めるための教育方法（インタビュー調査より）

- ・緊急事態を伝える説明を聞く体験
- ・繰り返す体験
- ・リアルな体験
- ・多様な体験

表4 セルフケア理論を活用する時の子どもとかかわる人々に求められる力

- ・子ども自身がもつセルフケア能力を信じる
- ・子どものセルフケア能力を正確に査定する
- ・子どものセルフケア能力で不足する部分のみを適切に補う

話し合いの中では、子どもとかかわる人々（保護者、教職員、医療者、地域住民等）の、意識改革の必要性も提案されています。セルフケア理論を用いて子どもたちの災害への備えを進めるためには、子どもにかかわる人々には表4のような力が求められます。

## VII. 子どもとかかわる人々の発想の転換の必要性

東日本大震災で被災された肢体不自由児を対象とする特別支援学校に勤務する9人の教員へ、子ども自身が災害に備えることの必要性について2011年11月に半構成的インタビュー調査を実施しました。得られたデータから逐語録を作成して内容の分析を行いました。

結果として、子ども自身が災害に備えることについての教員の認識は【個々の子どもの状況によるが必要】と【教員が子どもを守るため必要ではない】が抽出されました。【教員が子どもを守るため必要ではない】は、<すべて教員が対処する>、<教員が子どもを守る>、<子どもは誰かに頼って生活するのが基本>という教員の認識より導き出されたものです。このような認識の背景には、特別支援学校に在籍する子どもたちの障がい重さや重複障がいの子ども数の多さが影響していました。

さまざまな背景をもつ子どもたちが特別支援学校には在籍していますが、自分の力で自分を守ることができる能力を持つ子どもも多く在籍しています。また、教員や保護者が少し支えるだけで、子ども自身が自分でも知らない能力を引き出すこともあります。子どもは守られるだけの存在ではありません。子どもとかかわる人々が、子どもの力を信じて、子どもができることを伸ばし、不足している部分は補うという発想の転換をすることが、将来、自立（自律）していく子ども

たちに対応した、災害への備えとして必要なことではないでしょうか。特別支援学校に在籍する子どもを対象とした災害の備えについてのセルフケア理論の活用は、子ども自身のセルフケア能力を高めることを目的とします。しかし、子どもだけの力では災害に備えることはできません。そのため、保護者と教職員が、それぞれ必要な状況の中で互いに補い合うという発想が必要です（図4）。

**VIII. 子ども自身・保護者・学校教職員・医療者・地域住民の連携**

「V. 災害へ備えるために子ども自身のセルフケア能力を高めることの必要性」で提示しました3事例のように、これまでは子どもの生活にかかわることも、子ども自身が理解していない状況、子どもがかかわらない状況で進められてきていたことが多いのではないのでしょうか。

子ども自身が災害から自分のいのちを守るためには、個々の子どもの発達に応じた周囲の人々の子ども自身とのかかわりが必要となります。特に、医療を必要とする子どもの場合、自分の病状、治療方針、治療等に必要な物品、生活に必要な物品等、子ども自身が理解しておくことが必要な情報が多くあるため、保護者と医療者が連携しながら、子ども自身へ説明をすることが必要と考えます。もし、子ども自身が理解することが難しい場合には、必要な情報を、保護者、医療者、学校教職員（教員、養護教諭、看護師ら）が連携し、確認し合うことができるための書類等の準備をすることが必要です。

災害へ備えるため個々の子どものセルフケア能力を正確に査定し、適切な支援を行うためには、保護者、学校教職員、医療者の連携も必要です。子どもの持つセルフケア能力を補うためには、必要以下の支援でも、必要以上の支援でも、子どものセルフケア能力を高めることは難しくなります。そのため、子どもへの適切な支援の提供のため互いの情報の共有が重要となります。

子どもたちは、自宅と学校での生活だけを送っているわけではありません。東日本大震災で被災した特別支援学校では、課題として子どもたちの通学時への対応に真剣に取り組んでいます。特に、自力通学をしている児童生徒の場合、どこまで自分で避難できるのか、誰に助けを求めることが可能なのか、という大きな問題を抱えています。また、長期に及ぶ避難場所での生活をも視野に入れた準備が必要となります。そのため、事前の地域住民への情報提供、地域住民との協力の基での第一次避難場所や必要物品の確保等、地域住民との連携も重要な課題です。

**IX. 米国での災害時に必要な情報の共有化**

米国では、2005年8月に南東部を襲ったハリケーン・カトリナ以降、自然災害への備えについて大きな変化がありました。

2010年に、American Academy of Pediatrics は、Emergency Information Form (EIF)（資料4）を使用することは、特別なヘルスキアを必要とする子どもたちの災害に備えるためのドリルと練習帳になるとの声明を発表しました。EIFは、医療的状況や薬のレジ

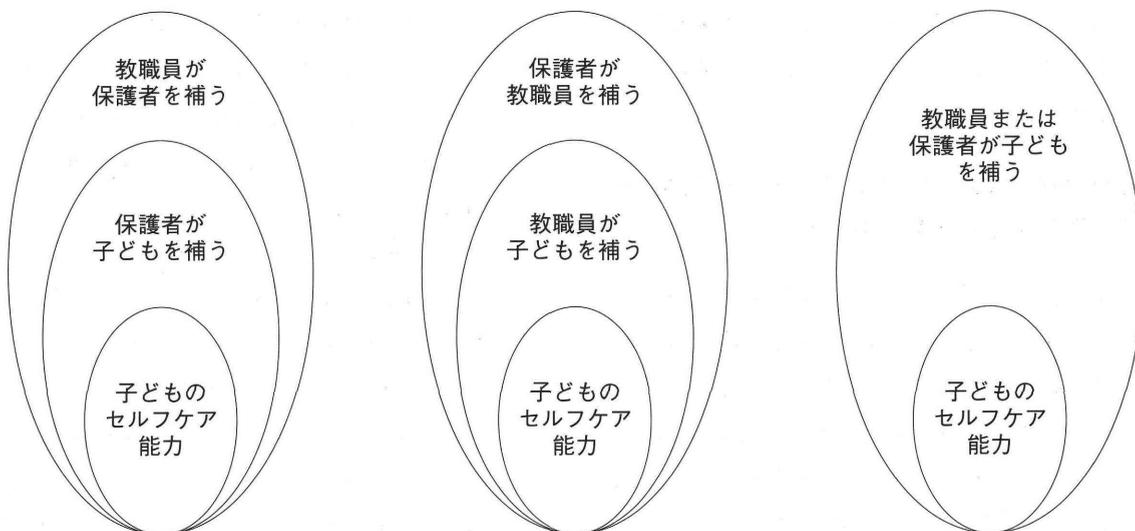


図4 特別支援学校に在籍する子どもの災害の備えへのセルフケア理論の活用

メン、および、特別なヘルスケアを必要とする子どもと障がいがある子どもに特有な要求をすばやく外観できるように開発されたものです<sup>6)</sup>。

2011年9月に筆者は、UNIVERSITY OF COLORADO-ANSCHUTZ MEDICAL CAMPUS COLLEGE OF NURSING を訪問し、付属病院と小児専門病院、大学構内の視察を行うと共に、危機管理担当者から災害への備えの情報を得ました。さらに、コロラド大学の数人の教授陣からの情報も得ることができました。EIFは、コロラド大学付属の小児専門病院でも使用していました。American Academy of Pediatrics 等が基本的なフォーマットを作成しましたが、取り組みは州ごとに行われ、各州でフォーマットを使用しやすいように修正して活用することになっていました。州の財政状況で取り組みは異なり、コロラド州は財政に問題があるため、火事・ハリケーン等と、限られた災害への取り組みになっていました。

米国では居住地以外でも、どこに必要な情報が記載されているのかがわかり易くなっている EIF の最新版を、家族が常に紙ベースで持参すること等の重要性が言われています<sup>7)</sup>。

コロラド大学の教授であり、米国の障がいがある子どもたちのリソースセンター(NRC)の Director である Marilyn Krajicek 氏は、障がいがある子どもについては病歴や薬の種類、ケアの必要性については家族が熟知しているため、災害が発生し避難所へ避難する場合は、家族と子どもと一緒に同じ場所に避難できることが重要であると何度も述べていました。

わが国でも、医療を必要とする子どもたちに必要な情報を国内で統一したフォーマットに記載し、子ども自身と家族が常に持ち移動することで、災害発生時に必要なケアを迅速に提供することが可能になるのではないかと考えます。

## X. 子どもが災害の備えへのセルフケア能力を高めることは<生きる力>を高めること

子ども自身が災害の備えへのセルフケア能力を高めるためには、まずは、子ども自身が自分の置かれている状況を受け止めることが必要です。そして、災害への備えを通して、自分の持つ力を知ることにもなり、また、自分に不足している力とその部分を補ってもらうことができる人を知る機会でもあります。このような経験が、子どもたちの<生きる力>を高めることに

つながると考えます。

子どもたちは、特別支援学校や支援学級卒業後、各自の能力に応じた自立(自律)した生活を送ることが求められています。災害の備えへのセルフケア能力を高めることを通じて、個々の子どもたちが、自分のいのちは自分で守るという意識と行動力を高めることにつながると願っています。

## 文 献

- 1) 片田範子, 三宅一代, 岡田和美. 小児病棟用ケアパッケージ. 兵庫県立大学看護学研究科21世紀 COE プログラム—ユニキタス社会における災害看護拠点の形成—看護ケア方略部門看護ケア方法の開発小児班. 2007年3月.
- 2) 片田範子, 三宅一代, 岡田和美. みんなで一緒に考える医療的ケアを必要とする子どもたちの災害への備え. 兵庫県立大学看護学研究科21世紀 COE プログラム—ユニキタス社会における災害看護拠点の形成—看護ケア方略部門看護ケア方法の開発小児班. 2007年3月.
- 3) 加藤令子, 小室佳文, 沼口知恵子. 『特別支援学校用災害シミュレーションパッケージ「茨城モデル」』. 茨城県立医療大学地域貢献研究「医療を必要とする子どもへの災害の備え」研究グループ. 2010年4月.
- 4) 加藤令子, 小室佳文, 沼口知恵子. 医療を必要とする子どもへの災害の備え. 平成20・21年度茨城県立医療大学地域貢献研究報告書. 2010年3月.
- 5) 小室佳文, 沼口知恵子, 加藤令子. 『特別支援学校用災害シミュレーションパッケージ「茨城モデル」』を用いた災害への備え. 平成22・23年度茨城県立医療大学地域貢献研究報告書. 2012年3月.
- 6) American Academy of Pediatrics, Committee on Pediatric Emergency Medicine and Council on Clinical Information Technology, American College of Emergency Physicians and Pediatric Emergency Medicine Committee. (2010): Emergency Information Forms and Emergency Preparedness for Children With Special Health Care Needs, PEDIATRICS 2010; 125 (4): 829-837.
- 7) Nathaniel Hupert. Children with Special Health Care Needs and Family Preparedness, Consideration in Emergency Preparedness: A Two Track Conference. Fourth Breakout Sessions 2005.

<b>I. 教職員用</b>			
<b>1. 発生危険のある災害</b>		<b>7. 医療的ケア</b>	
火災 地震 河川の氾濫 落雷 強風 土砂崩れ	<input type="checkbox"/>	対象児童生徒数	<input type="checkbox"/>
津波 原発事故 その他		対象児童生徒の体調	<input type="checkbox"/>
<b>2. 児童生徒</b>		避難時担当教職員	<input type="checkbox"/>
担当児童生徒数	<input type="checkbox"/>	避難方法	<input type="checkbox"/>
児童生徒の1日のスケジュール	<input type="checkbox"/>	持ち出し物品・置き場所	<input type="checkbox"/>
児童生徒の体調	<input type="checkbox"/>	バッテリー	<input type="checkbox"/>
児童生徒の移動手段	<input type="checkbox"/>	保護者の付き添い・待機場所	<input type="checkbox"/>
児童生徒の移動時担当者	<input type="checkbox"/>	<b>8. 各学校で決めておく項目</b>	
児童生徒の服装(くつ)	<input type="checkbox"/>		
児童生徒の必要物品	<input type="checkbox"/>		
災害時児童生徒の予測される状況	<input type="checkbox"/>		
保護者の付き添い・待機状況	<input type="checkbox"/>		
保護者の緊急連絡先	<input type="checkbox"/>		
<b>3. 教職員</b>		<b>II. 校長・教頭用</b>	
教職員数	<input type="checkbox"/>	発生危険のある災害	<input type="checkbox"/>
不在教員と補充教員	<input type="checkbox"/>	全児童生徒数	<input type="checkbox"/>
<b>4. 教室・避難経路</b>		全教職員数	<input type="checkbox"/>
教室内に危険物はないか	<input type="checkbox"/>	不在教員と補充教員	<input type="checkbox"/>
出入り口・非常口・避難経路の確認	<input type="checkbox"/>	保護者数・訪問者数	<input type="checkbox"/>
避難場所までの経路がふさがれていないか	<input type="checkbox"/>	持ち出し物品・置き場所	<input type="checkbox"/>
避難場所	<input type="checkbox"/>	スクールバス(台数・運転手・全乗車数)	<input type="checkbox"/>
<b>5. 避難物品</b>		連絡先 消防・警察・病院	<input type="checkbox"/>
持ち出し物品置き場所(教員、事務職員、児童生徒)	<input type="checkbox"/>	県教育庁特別支援教育課	<input type="checkbox"/>
<b>6. 連絡先</b>		市町村役場	<input type="checkbox"/>
避難後に報告する教員	<input type="checkbox"/>	市町村教員委員会	<input type="checkbox"/>
		職員の家族(緊急連絡先の変更)	<input type="checkbox"/>

資料1 イメージトレーニング編

保管場所  児 児童生徒個人のリュック  倉 倉庫  ( )

教 教職員個人のリュック  体 体育館  ( )

保 保健室  調 調理室

**教職員用非常用袋**

懐中電灯  はさみ  絆創膏  緊急笛  マジック  ティッシュ  ライター

ヘルメット  軍手  マスク  ビニール袋  ウェットティッシュ

タオル(薄手)または手ぬぐい  使い捨て手袋

**衣食住**

飲料水3日分

食料 児童生徒用  保管期限の確認 年 月

教職員用  保管期限の確認 年 月

一般避難者用  保管期限の確認 年 月

調理器具  カセットコンロ  木炭・薪

なべ  ドラム缶

やかん  ガスカセット  ゴム手袋

ポット  缶切り

食器類  ラップ  アルミホイル

紙皿  はし スプーン

コップ  ビニール袋

非常用給水袋

非常用トイレ、簡易トイレ

トイレ用ペーパー

電池  単1電池  単2電池  単3電池  単4電池

ランタン  ヘッドライト  明かりを吊るすもの フック

ラジオ  トランシーバー  ハンドマイク  携帯電話充電器

ろうそく、マッチ、ライター類  ろうそく用アルミホイル

テント  ブルーシート  レジャーシート  ガムテープ

**保管場所**

\* 食品は長期間保存でき、なるべく調理の必要のないものを用意しましょう。(缶詰、乾燥ごはんなど)。

\* 飲料水は、ひとり1日あたり最低2リットルを目安とし用意しましょう。

\* 専用の食品が必要な児童生徒のための食品を用意しましょう(アレルギー食、ゼリー、ベビーフード、トロミ剤など)。

\* 避難所に指定されていなくても、近隣の住民が避難してくる可能性があります。避難者用の食料について検討しましょう。

\* 温めたり、調理する食品を優先して必要とする児童生徒の確認をしておきましょう。

\* ラジオは、手で充電できるもの、明かりが付いているもの、また、携帯電話の充電ができるものなど多くの種類があります。使用しやすいものを用意しましょう。

- |                                   |                                     |                                    |                              |
|-----------------------------------|-------------------------------------|------------------------------------|------------------------------|
| <input type="checkbox"/> ドラム缶     | <input type="checkbox"/> プロパンガス、コンロ | 保管場所                               |                              |
| <input type="checkbox"/> 作業用ロープ   | <input type="checkbox"/> ホース        | <input type="checkbox"/>           |                              |
| <input type="checkbox"/> サバイバルナイフ | <input type="checkbox"/> のこぎり、斧     | <input type="checkbox"/> シャベル      | <input type="checkbox"/> 安全靴 |
| <input type="checkbox"/> ポリバケツ    | <input type="checkbox"/> ポリタンク      | <input type="checkbox"/> 万能バサミ     | <input type="checkbox"/>     |
| <input type="checkbox"/> くみ上げ用ポンプ | <input type="checkbox"/> 工具         | <input type="checkbox"/>           | <input type="checkbox"/>     |
| <input type="checkbox"/> 新聞紙      | <input type="checkbox"/> ダンボール      | <input type="checkbox"/> アルミブランケット | <input type="checkbox"/>     |
| <input type="checkbox"/> ゴミ袋      | <input type="checkbox"/>            | <input type="checkbox"/>           | <input type="checkbox"/>     |
| <input type="checkbox"/> 衣類       | <input type="checkbox"/> タオル        | <input type="checkbox"/> 清浄綿       | <input type="checkbox"/>     |
| <input type="checkbox"/> 衛生用品     | <input type="checkbox"/> 衣類         | <input type="checkbox"/> ウェットティッシュ | <input type="checkbox"/>     |
|                                   | <input type="checkbox"/> 下着         | <input type="checkbox"/> ティッシュ     | <input type="checkbox"/>     |
|                                   | <input type="checkbox"/> 靴下         | <input type="checkbox"/> ドライシャンプー  | <input type="checkbox"/>     |
|                                   | <input type="checkbox"/> オムツ        | <input type="checkbox"/> ペーパータオル   | <input type="checkbox"/>     |
|                                   | <input type="checkbox"/> くつ         | <input type="checkbox"/> マウスウォッシュ  | <input type="checkbox"/>     |
|                                   | <input type="checkbox"/> レインコート     | <input type="checkbox"/> 歯ブラシ      | <input type="checkbox"/>     |
|                                   | <input type="checkbox"/> 傘          | <input type="checkbox"/> 洗濯ばさみ     | <input type="checkbox"/>     |
|                                   |                                     | <input type="checkbox"/> 生理用ナプキン   | <input type="checkbox"/>     |

- |                             |                                   |   |                          |
|-----------------------------|-----------------------------------|---|--------------------------|
| <input type="checkbox"/> 冬季 | <input type="checkbox"/> 毛布       | <input type="checkbox"/> マスク                  | 保管場所                     |
|                             | <input type="checkbox"/> 防寒着      | <input type="checkbox"/> 帽子                   | <input type="checkbox"/> |
|                             | <input type="checkbox"/> カイロ      | <input type="checkbox"/> 手袋                   | <input type="checkbox"/> |
| <input type="checkbox"/> 夏季 | <input type="checkbox"/> クーラーボックス | <input type="checkbox"/> 帽子                   | 保管場所                     |
|                             | <input type="checkbox"/> 虫除け      | <input type="checkbox"/> テント                  | <input type="checkbox"/> |
|                             | <input type="checkbox"/> 蚊取り      | <input type="checkbox"/> 瞬間冷却剤(30分間程度の短時間の使用) | <input type="checkbox"/> |
|                             | <input type="checkbox"/> うちわ      | <input type="checkbox"/> イオン飲料(ペットボトル・粉末)     | <input type="checkbox"/> |
|                             | <input type="checkbox"/> 水        | <input type="checkbox"/> すだれ・網戸用の網            | <input type="checkbox"/> |

衛生・健康管理

- |   |   |                               |  |
|---|---|-------------------------------|--|
| <input type="checkbox"/> 内服薬  | <input type="checkbox"/> 保管方法                     | <input type="checkbox"/> 保管期限 | 保管場所   |
| <input type="checkbox"/> 坐薬   | <input type="checkbox"/> 保管方法                     | <input type="checkbox"/> 保管期限 | <input type="checkbox"/>   |
| <input type="checkbox"/> 一般薬(解熱剤、胃腸薬)                                   | <input type="checkbox"/>                          | <input type="checkbox"/>      | <input type="checkbox"/>   |
| <input type="checkbox"/> 救急セット(体温計、消毒薬、ガーゼ、包帯、三角巾、副木、保冷枕、保冷剤、蒸留水、生理食塩水) | <input type="checkbox"/>                          | <input type="checkbox"/>      | <input type="checkbox"/> *熱中症への緊急的な対処方法として消毒用アルコールによる冷却も検討しましょう。 |
| <input type="checkbox"/> 消毒用アルコール                                       | <input type="checkbox"/> 霧吹き                      | <input type="checkbox"/>      | <input type="checkbox"/>   |
| <input type="checkbox"/> 手指消毒用ジェル                                       | <input type="checkbox"/> 次亜塩素酸ナトリウム<br>(塩素系漂白剤など) | <input type="checkbox"/>      | <input type="checkbox"/>   |
| <input type="checkbox"/> ゴム手袋、マスク、血圧計、聴診器、トリアージタグ                       | <input type="checkbox"/>                          | <input type="checkbox"/>      | <input type="checkbox"/>   |

移送

- |  |                          |
|--|--------------------------|
| <input type="checkbox"/> 車椅子                 | 保管場所                     |
| <input type="checkbox"/> 担架                  | <input type="checkbox"/> |
| <input type="checkbox"/> キャスターつきベッド          | <input type="checkbox"/> |
| <input type="checkbox"/> 厚手の大きな布(シーツやカーテンなど) | <input type="checkbox"/> |

医療的ケア

- |                          |  |                               |                                |  |
|--------------------------|--|-------------------------------|--------------------------------|--|
| <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> バッテリー         | <input type="checkbox"/> 吸引   | <input type="checkbox"/> 経管栄養  | 保管場所   |
| <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> 吸引器           | <input type="checkbox"/> チューブ | <input type="checkbox"/> 栄養剤   | <input type="checkbox"/> *通常は手洗いのみで実施する医療的ケアでも、手洗いが十分にできないことを考慮し、消毒薬や手袋を用意しましょう。 |
| <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> 吸引ポンプ         | <input type="checkbox"/> 水    | <input type="checkbox"/> 栄養剤   | <input type="checkbox"/>   |
| <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> 手袋            | <input type="checkbox"/> 消毒液  | <input type="checkbox"/> 白湯    | <input type="checkbox"/>   |
| <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> アルコール綿        | <input type="checkbox"/> 吸入   | <input type="checkbox"/> 導尿    | <input type="checkbox"/>   |
| <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> 吸引チューブ        | <input type="checkbox"/> 吸入器  | <input type="checkbox"/> カテーテル | <input type="checkbox"/>   |
| <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> 経管栄養カテーテル     | <input type="checkbox"/> 吸入薬  | <input type="checkbox"/> 消毒薬   | <input type="checkbox"/>   |
| <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> 酸素ポンプ         | <input type="checkbox"/>      | <input type="checkbox"/> 清浄綿   | <input type="checkbox"/>   |
| <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> 酸素マスク         | <input type="checkbox"/>      | <input type="checkbox"/> 手袋    | <input type="checkbox"/>   |
| <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> 酸素カテーテル       | <input type="checkbox"/>      | <input type="checkbox"/>       | <input type="checkbox"/>   |
| <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> バルスオキシメーター    | <input type="checkbox"/>      | <input type="checkbox"/>       | <input type="checkbox"/>   |
| <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> バルスオキシメーター用電池 | <input type="checkbox"/>      | <input type="checkbox"/>       | <input type="checkbox"/>   |

心理ケア

- |                                  |                          |
|----------------------------------|--------------------------|
| <input type="checkbox"/> 児童生徒用物品 | 保管場所                     |
| <input type="checkbox"/>         | <input type="checkbox"/> |

資料2 備蓄編

<p>平常時確認しておく事項</p>			
①立地環境(1回/年)		担当者( )	
校舎の耐震強度	<input type="checkbox"/>		
地盤	<input type="checkbox"/>		
避難所指定の有無	<input type="checkbox"/>		
ハザードマップ	<input type="checkbox"/>	洪水や浸水予測、震度予測、EPZ*の確認	*EPZ:(原子力)防災対策を重点的に充実すべき地域の範囲
学校周囲の地理	<input type="checkbox"/>	おきやすい災害予測、避難経路の検討のために重要	
②校舎(年3回:4月、8月、12月)			
非常扉	<input type="checkbox"/>	ドアのたてつけ	<input type="checkbox"/>
非常階段	<input type="checkbox"/>	避難器具	<input type="checkbox"/>
窓ガラス	<input type="checkbox"/>	額縁など装飾品	<input type="checkbox"/>
ガラスの扉	<input type="checkbox"/>	鏡	<input type="checkbox"/>
屋根	<input type="checkbox"/>	瓦などが落下する危険性はないか	
スロープ	<input type="checkbox"/>	災害発生時に使用できる状態か	
階段	<input type="checkbox"/>	災害発生時に使用できる状態か、危険性はないか	
壁	<input type="checkbox"/>	ひびや破壊の箇所はないか	
エレベータ	<input type="checkbox"/>	点検はされているか	
③校内設備(年3回:4月、8月、12月)			
非常電源の場所	<input type="checkbox"/>	落下しそうなものの確認	<input type="checkbox"/>
発電機の場所・使用方法・燃料	<input type="checkbox"/>	電球	<input type="checkbox"/>
貯水槽の水量・開栓の方法	<input type="checkbox"/>	棚	<input type="checkbox"/>
水道の元栓の場所、閉め方、復旧方法	<input type="checkbox"/>	テレビ、時計	<input type="checkbox"/>
ガスの元栓の場所、閉め方、復旧方法	<input type="checkbox"/>	黒板、ホワイトボード	<input type="checkbox"/>
トイレ排水用水の調達方法	<input type="checkbox"/>	学校周囲の電線、電柱	<input type="checkbox"/>
公衆電話の位置、緊急時使用方法	<input type="checkbox"/>	校庭を囲む塀、巨木	<input type="checkbox"/>
消火器の位置	<input type="checkbox"/>	災害発生時のごみ置き場	<input type="checkbox"/>
		災害発生時の排泄物処理場	<input type="checkbox"/>
④情報(避難訓練時)			
消防署への非常電話の有無、使用方法	<input type="checkbox"/>		
災害用ケーブルテレビの有無、使用方法	<input type="checkbox"/>		
災害用電話の有無、使用方法	<input type="checkbox"/>		
緊急情報伝達方法(メール、ラジオ、短波)	<input type="checkbox"/>		

資料3 設備編

Emergency Information Form For Children With Special Health Care Needs				
Patient ID	Today's date		Who is completing this form? You must confirm consent to use this form.	
	Your name		Is this a new form or just an update? <input type="radio"/> Update <input checked="" type="radio"/> New	
	CONSENT REQUIRED		I (above named person) confirm that parent/guardian consents to the use of this form. <input type="checkbox"/> Consent	
	Patient's name		Address	
Facilities & Providers	Birthdate		Nickname	
	Primary language		Parent/guardian	
	Contact phones		Emergency contacts	
	Primary Care	Provider's Name	Specialties	All contact phone numbers (E-mail optional)
	Specialist-1			
	Specialist-2			
Specialist-3				
Specialist-4				
Specialist-5				
Others				
Primary Pharmacy (branch, phone, other)				
Anticipated primary emergency department (name, phone, other)				
Anticipated tertiary care center (name, phone, other)				
Clinical Baseline	Diagnoses/problem list (list all) starting with most important			
	Baseline physical findings			
	Baseline vital signs			
	Baseline neurologic status			
	Immunologic competency status			
	Synopsis of clinical status			
	Medications (doses, purpose)			
	Antibiotic prophylaxis (drug, dose, indication)			
	Significant baseline lab/imaging/diagnostic studies			
	Prostheses, appliances, advanced technology devices, life support			
Allergies, Medications, foods, substances to be avoided and why				
Advanced directives (include date of last review)				
Procedures to be avoided and why				
EO Management	Describe common presenting problems/findings		Suggested studies	Treatment recommendations
	Problem-1			
	Problem-2			
	Problem-3			
	Problem-4			
	Problem-5			
Problems-other				
Comments on child, family, or other specific medical issues				
Immunizations	DPT dates		Varicella status	
	Dtap dates		Hep B dates	
	OPV or IPV dates		Hep A dates	
	MMR dates		Meningococcal <b>specify which one if possible</b>	
	HB dates		TB status	
	Pneumococcal-7		HP virus	
	Other		Other	
Disaster Planning & Drills	Check or enter at least two of the most likely disasters that could affect this patient.			
	<input type="checkbox"/> Power failure	<input type="checkbox"/> Fire, forest fire		
	<input type="checkbox"/> Hurricane	<input type="checkbox"/> Infrastructure (roads, communication) damage		
	<input type="checkbox"/> Tornado	<input type="checkbox"/> Shelter structure damage		
	<input type="checkbox"/> Earthquake	<input type="checkbox"/> Food and water supply compromise		
	<input type="checkbox"/> Flood	<input type="checkbox"/> Medication, supplies, equipment compromise		
	<input type="checkbox"/> Tsunami	<input type="checkbox"/> Nuclear radiation accident (fallout, meltdown, contamination, detonation, etc.)		
	<input type="checkbox"/> Blizzard	<input type="checkbox"/> Explosion, blast, Other (e.g., terrorism, biological accident, chemical accident, other weat		
	<input type="checkbox"/> Avalanche	<input type="checkbox"/> Other (e.g., terrorism, biological epidemic/accident, chemical accident, other weather event)		
	<input type="checkbox"/> Land/Mud slide			
Other (describe)		Other (describe)		
Disaster drills reviewed or practiced with patient. Documentation of completed drills and planned dates for future drills.				
Date	Disaster type	Example drills: verbal review paper review table top model computer simulation hand on practice equipment review in home review alternate electrical power electric generator use	Describe type of drill	

出典 <http://pediatrics.aappublications.org/content/125/4/829.full> (アクセス2012年5月9日)  
資料4 Emergency Information Form (EIF)